

2020年度バスケットボール授業研究会 参加者からの質問と回答

番号	参加者からの質問	講師からの回答
1	ルールの工夫で、持っているボールを奪うことができない、とありましたが、ドリブルカットがパスカット禁止という意味でしょうか？	「ボールを持っているとき、ドリブルしているときのカットはしない」というイメージです。「ボールを持っている人には触らない」という言い方もします。逆にボールをカットできるのは、パスカットとリバウンド、ルーズボールとしています。けがやファールをしないようにするため、攻守入り交じりの難しさや抵抗感を少なくするためです。
2	小学校で授業を計画する際、時数はどのくらいで計画するのか教えていただきたいです。	3、4年のゴール型ゲームでは6時間程度で計画します。 5、6年のゴール型（バスケットボール）は他の単元との兼ね合いもありますが、6～8時間程度です。
3	ルールの工夫等分かりやすく講演いただきありがとうございました。単元を構成されるときに、「感覚づくりの運動」はどうされていますか。ゲーム形式をされる前に何か活動を取り入れていらっしゃるなら、ご教授いただければ幸いです。	「感覚づくりの運動」は、なるべくたくさんボールを扱うようにします。ボール操作のよい動きを紹介したり称賛したりしながら、活動時間を確保し、苦手としている児童に助言をします。他にも「チームタイム」を設定し、チームごとに練習を選べるようにしています。なんのための練習なのか、どういうときにその練習が必要なのかということも児童が知っていると、理由を明確にして練習を選ぶことができます。
4	スライド資料の中に「4対3」の表示がありましたが、文科では小学校においては、「3対3」のゲームを推奨しているので、「4対3」の活動経験の必要はなくてもよいと思うのですが、いかがでしょうか。	3対3のゲームでドリブルなしにしてしまうと、空いている味方を見つけるのがとても難しいです。また、小学校事情として、体育館でバスケットコートが2面しか取れず児童数が多い場合、見ている児童を減らすために1チームの人数を多少増やすことも考えます。ルール（身に付けさせたい力）と実態に合わせて4対3のゲームを取り入れることもあります。理想は1チームの人数が3人です。
5	小学校の授業における評価方法について工夫していることなどはありますか？	評価基準を設定し、その項目について積極的に称賛するようにしています。すると、児童の意識も高まり、チームでの話合いにもその内容が増えたり、学習カードの記述にも見られたりするので評価にいかせます。指導していないことを評価することのないよう、また、評価を次の指導にいかせるよう、務めています。必要なときは、記録としてゲームの映像を撮っています。
6	千葉先生に質問です。攻撃専門のプレーヤーを作るルールでオフェンスが1人居残りになり、速攻のみの単調なゲームにはならないですか。3対2などのアウトナンバーの練習が有効であることは実感しているのですが、練習でなくゲームでそれを実施したときにどうなるのか不安に思っていました。また攻撃専門の人のゲーム中の具体的な動きやルールについてあったら教えてください。	攻撃専門のプレーヤーの待機場所をハーフライン上にしたこともありました。でもあまり細かいルールが増えるとゲームがやりづらくなります。まずは速攻のプレーが多くなりますが、ゲームを重ねるにつれて児童が課題に気づきます。ロングパスのリスクに気づき、速攻をやめたり、ロングパスの練習をしたりするチームがあったり、速攻をやられるのを止めたいから、切り替えを速くしたり守り方を工夫したりするチームがあったりします。子どもたちの課題解決を促していくと、自然と速攻が減っていくと思います。ただ、攻撃専門プレーヤーは必ず交代制にします。

2020年度バスケットボール授業研究会 参加者からの質問と回答

番号	参加者からの質問	講師からの回答
7	小学校では、ゲームでの授業が中心だと思いますが、苦手な児童に対しての参加を促すための工夫はありますか。	「自分がチームに貢献している」という気持ちを持てるようにしています。みんなでうまくなること、自分だけでなく友達がうまくなったらうれしいことやチームワークを高めるよさを普段から実感できるように努めています。そのために、苦手な児童には積極的に助言をし、小さな上達でも称賛しています。また、「みんなが楽しいルール」になるように苦手な子も活躍できるルールを学級全体で考えます。
8	千葉先生、黒島先生にご質問です。 バスケットボールで一番好きな所はシュートということでしたが、そのシュートやドリブルをうまくさせるカンやコツなどはどのように伝えておりますでしょうか？ 「こうしたら入りやすいよ」 「こうしたらドリブルうまくできるよ」など よろしくお願いします。	シュートは①ふわっと投げる、②ひざ（体全体）を使って投げる ③ボードも使える ④打ちやすいのは45° これらのポイントを実態に合わせて確認します。ドリブルは、とにかくたくさんやってみる時間を確保して、手のひらではなく、指先で押す感じを確認し、手元を見ないでできるとさらにいいという程度です。 「リングの上にボールを置きにいくこと」、「ボールは前に投げるのではなく上に上げること」、「まっすぐ投げること」を意識させています。フォームなどはほとんど教えていません。
9	小学生の人数が多くコートが狭いです。そのため運動量の確保や待っている間に飽きてきてしまう児童が多いです。隙間でできる学習などはありませんか。コート外もとても狭いです。	バスケットのコートは2面しか取れない場合が多いので、どこも同じ悩みがあると思います。1つは、ハーフコートのゲームにすると、オールコート3対3よりも多くの人数の子がゲームに出ることができます。また、大きく4チームを作り、その中から3人ずつゲームに出て、見ている子達はそのゲームの記録（シュート数やシュート場所、触球数、パスのつながり等）をとり、作戦にいかしたりします。
10	千葉先生に質問ですが、小学生のミニバスでも飯田先生のように、シュート成功率向上として入った本数／エアボールの記録を取ったりすることはあるのでしょうか？ 記録することで楽しむという面白さが欠けてしまったということはあるですか？	小学校の授業ではあまりやらないと思います。「学校体育実技指導資料 第8集ゲーム及びボール運動」（平成22年3月文部科学省）には「ゲームを楽しく行う中で、楽しさや喜びに触れながら技能を身に付けていく」とあります。ゲーム中のシュート数などを記録することはありますが、個人のシュート率を課題とするものではなく、作戦のふり返りやチームの課題を見付けるのに役立てるものです。個人の成績のようにしてしまうと、意欲が低下してしまう児童が出ると思います。
11	「視点」をおっしゃったときに、〇〇ドリルというようにおっしゃったと思うのですが、視点を向上させるドリルなどがあるのならば、教えていただきたい。	Quiet Eyeトレーニングのことですね。下記のページに「視線行動の変容に着目したトレーニング方法の可能性」という論文（フリーアクセス）がありますので、そちらをご参照ください。 https://www.jsbs.info/journal
12	「中学生でのルールの工夫」にて、ファウルをわかりやすくする、とは具体的にはどのような工夫をされていますか？	ボールには触れてもいいがオフェンスに手で触れるとファウルにする。また、身体で触れてもファウルにする。
13	黒島先生へ 生徒が考えたルールはどのようなものがありますか？また、ドリブルゾーンを詳しく教えてください。	生徒が考えたルールは「触れてはだめ」、「パスカットやドリブルカットはなし」など、その日その日で変化します。ドリブルゾーンは、コートにラインを2つ引き、そのゾーンはドリブルをカットや邪魔することができません。先日の発表では、緑色のゾーンで示していました。

2020年度バスケットボール授業研究会 参加者からの質問と回答

番号	参加者からの質問	講師からの回答
14	中学生の時からオフボールでディフェンスを振り切ってスペースに動くことの重要性を身につけた方が、その後のバスケットボールを意欲的に取り組むと思うのですが、どうでしょうか。	生徒の実態に応じたことをチャレンジすればいいと思います。とても面白いと思います。生徒からそのようなことを言ってもらえるとさらに意欲的になると思います。
15	トラベリングOK,ダブルドリブルOK等とすると、生徒によっては嫌がったり、やる気を失うことはありませんでしょうか？「そんなんバスケットじゃないじゃん」等	できる生徒にはトラベリングやダブルドリブルなどを反則にしています。個に応じたルールにすることも大切だと思います。自己決定させています。また、うまくない生徒が恥ずかしい思いをさせないことが重要になります。
16	酒井先生へ、生徒によっていろいろな違いがあるとのことですが、男女別等は良いとして、同じ授業の中での生徒の多様性にどう対応していますか？	多様性については、個別で対応するしかないと考えています。時間は限られていると思いますが、授業内に出来るだけ多くの生徒と会話をするように心がけています。 特に体育が好き・バスケットが好きという生徒よりも、体育が嫌い・バスケットが嫌いな生徒に対しての声掛けが非常に重要です。その際ですが、褒めるというより、今の力量を認めたうえで、その生徒なりの課題を伝え、出来るようになるまで、見届けてあげるとベストです。出来ることのレベルを競うのではなく、成長の度合いを競わせるとどの生徒にとってもやりがいや楽しさを感じられる授業となるはずです。
17	キャッチの「ボールの持ち方」等どのように高校生に伝えていますか？	初めは自分で床についたボールを両手でキャッチするところから始めると良いと思います。その際、手の構えは親指人差し指で三角形（おにぎりの形）を作らせます。ボールが触れる部分を必ず伝えます。両手をべったりとつけた状態から手の平の部分だけ浮かせます。手が合わさっている部分（指の腹）がボールに触れる部分であるということを伝えます。その次に2人1組で対面パスを行います。初めは下からそっと投げさせと恐怖心なく出来ると思います。レシーバーは指先ではなく手のひらを相手に向け、ボールをとるのではなく自分の体の前に落とすということをさせると良いと思います。その時の注意点ですが、必ず指先を天井に向けるようにしてください、キャッチが出来ない生徒に多いのは指先が下を向いてしまうことです。慣れてきたらそのままキャッチという流れです。各生徒のレベルによってスタートラインが違ふと思います。どこから始めるかは、目の前の生徒によって変えて頂けたらと思います。
18	飯田先生への質問です。ワンハンドのフォーム練習、視点についてのドリルの名前をもう一度教えてほしいです。	ドリルの名前は特にありませんが、「シュートフォームづくり」と呼んでいました。注目した点は3つです ①真っすぐ遠くに→エアボール減少 ②アーチと回転→成功率向上 ③視点とルーティーン→再現性向上

2020年度バスケットボール授業研究会 参加者からの質問と回答

番号	参加者からの質問	講師からの回答
19	大学生にもルールの工夫をされたのでしょうか？	はい、本来の3x3のルールでは技術的にも運営的にも厳しいので、12秒ルールとフリースローはなくし、シュートファウルは1点にしました。シュートファウルで得点が入るルールは危険なプレイが減る副産物もありました。
20	バスケットの楽しさを追及していくとオープンスキルの指導が中心となるのかなと思いました。一方、ボール操作の部分はある程度教えていくことも上達（技能面の上達）に必要なと思いますが各年代でどの程度、どのようにして指導しているか、指導すべきだと考えているか教えてください。	技術指導に関してはシュート中心で良いかと思います。シュートの種類としてはドリブルシュートとゴール下は必ず指導したい技術です。パス練習の延長がシュート練習と捉えていますので、対面パスの中でキャッチ&パス（シュート）の技術練習を行いながら技術向上を目指すと思います。ドリブルについてはやはりある程度の時間と量が必要だと思いますが、限りはあると思いますので、時間配分をどのようにするかポイントかと思います。
21	3人制のバスケットは、状況判断の回数が多く、育成世代こそバスケットの技術習得にも非常に有効であると感じています。3x3を小中高の体育で導入するにあたって、大変になる点はどういった点でしょうか？	3x3はバスケットの技術向上には非常に効果的なものだと思います。大変な点を挙げるとするならば、プレー（参加）出来る人数が少なくなってしまうということです。そこは工夫が必要かと思います。 ゲームの人数に関しては2面で行えばむしろ2人参加人数を増やすことはできます。ただ、見なければいけないコートが増えるので教員側が大変でした。
22	中学校と高校で、これがうまくいったというゲームの様子があれば教えてください。（教材やルール、実施学年も含めて）	ご質問いただいた内容について、次回の授業研究会で扱えるよう検討させていただきます。
23	説明されていたらすみません。 男女ミックスでする場合、ボールはどちらを使用していますか？ または男女ミックスで試合していますか？	男女ミックスで行ってはいませんが、行うとするならば6号ボールが良いかと思います。 3x3のボールは6号と7合の間（6号サイズ、7号重量）なので、その面でも誰も不満を言わずに実施できました。
24	埼玉県でミニバスの指導をしています。 チーム内は学年別に練習をすることができない場面が多いのですが、子供たちの言葉使いが気になります。 学校のクラスでは、相手に伝える言葉についてどのようにご指導されてますか？	言葉使いに関しては昔と比べると、やはり違和感を覚えることも多々あります。しかし大切なのはお互いの信頼関係が出来ているかどうかが一番大事なことだと思います。そう考えると丁寧な言葉を使うことが全てではないように思います。ただし、状況に合わせてしっかりとした言葉使いが出来るように指導する必要は絶対にあると思います。上下関係についてはやはり、中学あたりから始まると感じますのでミニバス時期は学年にこだわる必要はそれほどないと考えています。

2020年度バスケットボール授業研究会 参加者からの質問と回答

番号	参加者からの質問	講師からの回答
25	ゲーム中コート我真ん中に漂ってしまう生徒(運動が苦手な子)がいます。そういった生徒をゴール下まで行かせたり、ボールに関われるようなルール工夫又は指導方法があれば教えて下さい。	そういった生徒に対して真っ先に考えるのは、まずはその生徒にシュートを打たせる(決めさせる)ことです。そのためには具体的にシュートが決められる位置を教え誘導します。ただし、その場所にいてもパスが来なければ意味がないので、同時にある程度、技術がある生徒にパスを出してもらうよう事前に伝えます。すると具体的な動き(目標)ができ、達成した時の喜びはチーム全体に広がります。また、たとえ成功しなくとも、チャレンジしたことを必ず評価してあげることが大切です。ただし、それに不満を漏らす生徒もいることでしょうかから、その生徒へのアプローチも忘れてはいけません。そのバランスが大変かと思いますが、一つの参考にして頂ければと思います。
26	苦手な子が、ゲームになれば逃げていたり、ボールに触らなかったりすることはないのですか。	あります。そういった生徒に対しては無理してボールに触れさせるようにしなくても良いと思います。余計に嫌がる可能性があります。その代わり、試合以外の練習などでその生徒にあった技術練習を行わせ、それに取り組む姿勢や出来たことに対しての評価をしっかりと伝えることが大切だと思います。
27	バスケットボール用語は年々増え、変化していると感じています。授業で専門用語は使いづらいと思いますが、言い換えた例があれば教えてください。	難しい専門用語は出来るだけ使わないようにしています。(例)ペイントエリア⇒長方形の中)
28	人間関係の悪化が背景にあり、授業に意欲的に取り組めない生徒がいた場合、どのように配慮をしていますか？	あまり無理して引き込まず、授業以外の時間でさり気なく会話をしながら原因や解決方法を探るよう努めています。
29	正規のルールに近づけていく必要性も感じますが、どのように移行していくと良いと考えられますか？	児童、生徒、学生が将来、競技者になることを目的としているのであれば、正規のルールに近づく必要があるかと思いますが、授業では競技者の育成が目的になることはありません。大学でも、生涯スポーツにつなげる、そのスポーツを理解する程度のものです。したがって、主なルールを説明はするものの、正規のルールでゲームを実施する必要性はありません。それよりも、ルールを理解したうえで、その場の状況、集まった仲間たちの能力、利用できる時間などに合わせて、ゲームを楽しむようにルールを変更できる能力のほうが重要になります。

2020年度バスケットボール授業研究会 参加者からの質問と回答

番号	参加者からの質問	講師からの回答
30	体育の授業なのでバスケットボールのゲームを見たことはない確率が高いのではないかと思います。「イメージ」のないものを「言語指導」で教えるのは非常に難しいと思います。まずはバスケットボールという競技がどう言うものかと言うイメージを持ってもらえる工夫はされていますか？またそう思う思いはございますか？(米国では子供の頃から誰でもテレビで見る機会がある。日本の野球のようなイメージです。)宜しくお願い致します。	一番は試合の映像を見る時間を作ると良いと思います。特に今では知名度の高い八村選手などの試合を見せると生徒達も見やすいのではと思います。イメージには『映像』の力が絶大だと思います。 大学ではオンライン課題で試合の映像を見たレポートを行わせました。
31	1面コートに30人以上の人数でバスケの授業を行わなければなりません。 ボールも20個しかありません。 そういった中でバスケの授業を行う際、生徒一人一人に満足の得られる運動量を与える工夫について考え方を聞いてみたいです！	その環境であれば基本的に2人1組で全ての練習を行います。パスは対面で様々な種類を行えば良いかと思います。ドリブル練習は同時にパートナーのディフェンス練習にもなります。 シュートはシュートを打つ生徒、リバウンドする生徒というように全員の運動量を同時に確保することは十分に可能だと思います。今はコロナの問題で出来ませんが1面で80人ボール40個でも実施した経験上、グループの人数を変えたり、使用するボールを減らしたりと色々工夫出来ると思います。
32	技術練習がゲームの中で再現性があるのですか？技術がうまくなくてもや空間を理解できている生徒をどう評価しますか？	評価に関しては、様々な観点から付けられるとは思いますが、後でどのように評価をつけたかを説明出来ることが重要だと考えています。そう考えると、数値化（何本・何秒）が一番わかりやすいと思いますが、それに加えて数値化出来ないものをどう評価するかは、指導者側がバスケット経験者かどうかでも大きく変わってくると思います。具体的に『空間を理解できる』という生徒の評価は非常に難しいと思いますので、誰が見てもわかる評価の指標が良いのではないかと思います。
33	せっかくの機会なのでここで小学、中学、高校、大学というスパンで連動して考えることが大事だと思います。特に神経系の発達を考えた時に、特に小学校時にコーディネーションの発達に重点を置き、バスケットの競技の枠を超えて行うこと、その流れを中学、高校に繋げれば、高校や大学で突き指という結果は減少すると思います。	長期的な視点も大事だと思います。今後、授業研究会でも議論していければと思います。

2020年度バスケットボール授業研究会 参加者からの質問と回答

番号	参加者からの質問	講師からの回答
34	習熟度別の授業を行うことについてどう考えますか？	各生徒の運動レベルの違いはもちろん存在しますが、体育活動において集団、チームというものを教える意義は大きいと感じます。したがって、体育において習熟度別は必要ないと考えます。
35	1面コートに30人以上の人数でバスケの授業を行わなければなりません。 ボールも20個しかありません。 そういった中でバスケの授業を行う際、生徒一人一人に満足の得られる運動量を与える工夫について考え方を聞いてみたいです！	3x3はハーフに6人、オールで12人なので若干5on5よりも同時に試合できる人数は増えますし、大学生の例ではありますが、2分程度のゲームでもかなりの運動量で学生たちは満足していました。ぜひ取り入れてみてください。